

医学系研究に関する情報公開文書

研究課題名	新生児期の疾患と血小板数・網血小板比率の関連性について
研究責任者	中尾 厚
研究機関名	日本赤十字社医療センター
研究目的と意義	<p>血管外への出血において重要な働きをする血小板は、主に骨髄で作られています(血小板造血)。しかし、その血小板造血のメカニズムは複雑であり、様々な因子が関与して適切な血小板数を維持する様に働いています。この中には、体内で産生される物質(体内産生物質)も含まれています。しかし、この体内産生物質は、血小板だけでなく様々な疾患によっても、産生量に影響を受けることが知られています。一方で、一般的な血液検査を行うと成熟した血小板とともに幼若な血小板なども混在しており、それぞれの値を検査することができます。この中に網血小板比率が含まれています。過去の研究から、網血小板比率は血小板造血の指標として用いることができ、血小板数の推移や血小板造血の指標のみならず、体内産生物質の産生状況を間接的に把握することができます。このことを応用して、成人だけではなく、新生児においても、一部の疾患との関連性について研究が多数行われる様になりました。新生児における血液検査には採血量の制限があり、少ない情報で様々な予測因子を得られることは、治療方針の決定において有用となります。そこで、新生児の疾患重症度などとの関連性を検討するために、今回の研究を計画しました。</p>
研究方法	<p>2013年から2017年に当院NICUに入院した児で、出生体重が1000 g未満の児を対象とします。生後24時間以降に当院へ転院となった症例は除いています。また、一部の血小板造血の明らかな影響が指摘されている疾患の合併症例は、除外しています。出生時(入院時)の血液検査は、出生体重と今後の治療方針の決定において重要であるため、全症例に対して行っているものです。網血小板比率についても、入院時の血液検査の項目の一つとなっています。同様に、児の入院中、治療上必要な時期に行った血液検査の結果を診療録から抽出します。また、児の入院中の臨床経過や放射線検査、生理機能検査などにつきましても、同様に過去の診療録を用いて抽出します。このため、今回の研究のために、新たな血液検査を含めた検査を行うことは致しません。</p> <p>倫理的配慮:情報は匿名化しておりますので、個人を特定することができないようになっております。また、個人情報の保護は十分に配慮をし、解析を行います。上記対象に該当すると思われる患者さんで、本研究へ登録を希望されない方は、下記までご連絡ください。希望されなくても不利益を被ることはありません。</p>
問い合わせ先	<p>日本赤十字社医療センター 新生児科 〒150-8935 東京都渋谷区広尾4-1-22 担当者：中尾厚、櫻井裕子 TEL：03-3400-1311 FAX：03-3409-1604</p>